



# 輝き人生

このコーナーではきりと輝きながら活躍する市民を紹介します。

## アコーディオン(手風琴)の響きに魅せられて

うちだ いちろう  
**打田 一郎さん (御幸町)**



自宅のレッスン教室で、アコーディオン仲間と演奏会に向けて練習する打田さん

右手ではピアノのような鍵盤、左手では無数に並んだ白いボタン(ベース音や和音を発する)を操作し、蛇腹を開いたり閉じたりしながら、アコーディオンを思いのままに演奏する打田一郎さん。三重アコーディオン協会の会長で、70年近くのアコーディオン演奏経験を持ち、その重ねた年輪が多彩な音色となって表現されます。80歳となった現在でも、月に3~4回、老人福祉関係の施設や幼稚園などを訪問し、アコーディオンの心地よい響きをお届けしています。

一始めたきっかけは？

「小学生のころ、家に転がっていた小さなアコーディオンを、何気なく触っているうちに演奏方法を覚えてしまいました。また、戦後間

もないころの学生時代には、自宅周辺にあった駅関係の宿舎から聞こえてくる青年たちの楽器演奏が、アコーディオンや音楽への興味を一層強めました。」

一アコーディオンの魅力は？

「リズム、メロディー、ハーモニーの音楽の三大要素を合わせ持っているのです。色んなジャンルの演奏ができて、お客さんを楽しませることができます。また、胸に楽器がひっついていて、自分が喋るのと同じような感覚で弾けたり、空気の入れ方で演奏の雰囲気も変わったりするので、とても興味深い楽器ですよ。」

一これまで続けられている理由は？

「20歳で楽団に入り仲間と各地で演奏したり、時には酒場を回り、

お客のリクエストに応じて歌の伴奏をしたりなど、色んな経験ができたからだと思います。また、今では各訪問先で、演奏の響きに懐かしさを感じて歌を口ずさみ、中には思わず涙が溢れるご高齢の方や、珍しい音色に熱心に聞き入る子どもたちを見ると、とても嬉しい気分になります。それと、なんと言っても人前で演奏するのは気持ちが良いですよ。」

一これからは？

「演奏する人が少ないので、アコーディオン仲間が増えると良いなと思います。65歳を超えて始める方もいますので、興味のある方は気軽に声を掛けてもらえると。みんなでアコーディオンを演奏すれば、きっと楽しいですよ。」



### 図書館の本棚から

市立図書館  
(☎82-0542)



『居酒屋ぼったくり』  
秋川滝美／著  
アルファポリス (2014年5月刊)  
少々ぶっそうな名前の居酒屋「ぼったくり」を受け継いだ姉妹と、客たちとが織りなす、人情味豊かな物語。その名に似合わずお得なその店には、おいしい料理と旨い酒があり…。ネットで人気の作品が書籍化！



『ふしぎな国道』  
佐藤健太郎／著  
講談社 (2014年10月刊)  
国道の「おにぎり」を知っていますか？アーケードの下の道が国道？階段なのに国道？県内の国道の「なにこれ」も多数掲載！国道マニアにも、そうでない人にもお薦めの一冊。

### ～新着だより～

#### 小説

- トライアングル／岡井崇
- 長崎に生きる／渡辺千恵子
- 1981年のスワンソング／五十嵐貴久
- 黒薔薇／二上剛
- 解放老人／野村進

#### 児童

- きつね音楽教室のゆうれい／小手鞠るい
- 羽生善治の将棋入門／羽生善治
- ほこほこのがっこう  
／ザ・キャビンカンパニー
- さくらいろのりゅう／町田尚子
- ミルクが、にゅういんしたって?!  
／野村一秋

#### その他

- 孤独死の看取り／嶋守さやか
- だれでも花の名前がわかる本
- 勝手に大相撲審議会／やくみつる
- 寝台列車の図鑑／栗原景
- ひだパン／飛田数緒

他 287 冊